

サンゴとサンゴ礁しょう

サンゴ礁とは、サンゴという生物の骨によってつくられた地形のことをいいます

サンゴ礁しょうをつくるサンゴは「造礁サンゴぞうしょう」と呼ばれ、固い骨をもっています。この骨がサンゴ礁をつくっているのです。

この固い骨はサンゴが死んでも残り、その骨に新しいサンゴがくっついて成長していきます。そのため、島の周りに発達したサンゴ群集は、どんどん上に積み重なって成長していき、サンゴ礁は大きくなっていきます。中には、サンゴ礁だけでできた島もあります。

なぜ造礁サンゴはこれほど大きく成長できるのでしょうか。造礁サンゴの体の中には褐虫藻かつちゆうそうという藻類きょうせいが共生していることが知られています。褐虫藻はサンゴの体内こうごうせいで光合成をおこなっており、それによってつくられた栄養分を、サンゴはもらっています。これにより、造礁サンゴは素早く成長することができます。逆に、光が当たらなかつたり、褐虫藻がいなくなつたりすると、栄養がたりなくなつて、そのサンゴは死んでしまいます。

サンゴ礁をつくるサンゴ



コマルキクメイシ



カワラサンゴ

サンゴ礁をつくるサンゴ(造礁サンゴ)の多くはイシサンゴというグループに属しています

サンゴ礁のタイプ



サンゴ礁

海

島

裾礁

①サンゴの群集が島に接して発達した状態きよしょう(裾礁)



堡礁

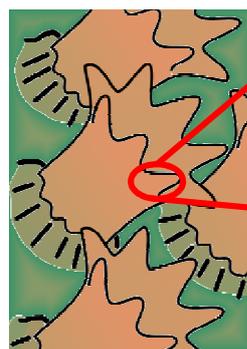
②サンゴの群集が島の周りを防波堤のように囲んだ状態ほしょう(堡礁:バリアリーフ)



環礁

③島がなく、サンゴの群集だけが陸地かんしょうになった状態(環礁)

サンゴの褐虫藻



褐虫藻

サンゴの細胞

サンゴのポリプの中には褐虫藻という藻類が共生しており、光合成をおこなっている